2016 年度点検・評価シート

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学研究科
評価基準 7	教育研究等環境
点検・評価項目(4)	7-4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
	ティーチング・アシスタント（ＴＡ）・リサーチ・アシスタント（ＲＡ）・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備
	研究会、セミナー、シンポジュウム等の開催および学術雑誌の刊行状況
点検・評価項目(6)	7-6 教育研究等環境の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ【点検・評価項目ごとの現状説明】

7-4	大学院１年からほぼ全員がティーチング・アシスタント（ＴＡ）として学部教育に貢献しているが、リサーチ・アシスタント（ＲＡ）や技術スタッフなど教育研究支援体制の整備は整っているとはいえない。
7-6	教育研究等環境の適切性については、入学者数と大学院生の研究課題に応じた研究設備は整備してきているといえる。しかし、大学院生を指導支援するするシステムや研究環境が整っているとはいえず、その責任主体・組織、権限、手続きも明確ではない。

【効果が上がっている事項】

7-4	
7-6	

【改善すべき事項】

7-4	教育研究等環境の適切性について定期的に検証を行う責任主体・組織、権限、手続きを明確にすべきである。
7-6	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

B7-27 大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動）
http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html
B7-30 大学データ集 ≪既出≫B1-22

＜大学基礎データ＞
d1-表 2　全学の教員組織
d1-表 5　校地、校舎、講義室・演習室等の面積

〔追加資料〕

Ⅲ【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標(2014～2018)	7-4 リサーチ・アシスタント（ＲＡ）・技術スタッフなどを雇用して教育研究支援体制を強化する。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。	→			B		
	7-6 教育研究等環境の適切性について定期的に検証を行う責任主体・組織、権限、手続きを明確にする。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。	→			B		
14 年度目標	7-4 リサーチ・アシスタント（ＲＡ）・技術スタッフなどを雇用に関して、大学執行部、大学院事務室と検討を開始する。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。	→	B				
	7-6 本研究科委員会および本研究科内の自己点検評価委員会において、	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学	→	B				

	研究会、セミナー、シンポジウム等の開催および学術雑誌の刊行状況に関する検討を開始する。	研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。					
15 年度目標	7-4,7-6 大学院生を指導支援するするシステムや研究環境は整え、その責任主体・組織、権限、手続きを明確にする。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。		B			
16 年度目標	7-4,7-6 大学院改革を通じて、大学院生を指導支援するシステムや大学院研究環境を整えるよう大学に要望し、その責任主体・組織、権限、手続きを明確にする。	検討結果が研究科委員長会、大学院評議会に議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。			C		